

大会名称: 第23回FIBA ASIA U-18男子バスケットボール選手権大会

開催場所: Al Gharafa Sports Club (カタール・ドーハ)

試合区分: No. 109 男子 予選ラウンド・グループD コミッショナー: VEERASAMY PONNIAH Danapal

期 日: 2014(H26)年8月20日 (水)

主審: HWANG Intae

開始時間: 13:00

副審: AL-KUWARI Bakr Abdulla, CHANG Yee Chuan

終了時間: 14:35

ホンコンチャイナ

(通算0勝2敗)

●
71

14 -1st- 26
16 -2nd- 24
22 -3rd- 25
19 -4th- 21
-OT1-
-OT2-
-OT3-

○
96

日本

(通算2勝0敗)

第23回FIBA ASIA U-18男子バスケットボール選手権大会。グループD第2戦、日本はホンコンチャイナと対戦。昨日のゲームの反省からリバウンド時のコンタクトとスクリーンプレーに対するディフェンス対応の徹底を強調してゲームに臨んだ。

第1ピリオド

日本スタートは#4津山、#8内田、#9青木、#10井手、#13渡辺。両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。日本は#4津山が放ったシュートに#9青木がリバウンドシュートを押し込んでカウントワンシュート、幸先良く先制する。ホンコン・チャイナも#11Hoがすぐさま取り返し3-2となる。しかし日本は、試合前に確認したディフェンスをきちんと行い、ホンコン・チャイナに得点を許さない。すると#13渡辺のゴール下のシュート、#10井手、#9青木がドライブインからゴール下の粘りで加点し、開始4分9-2となったところでホンコン・チャイナはタイムアウトを取る。その後も日本はディフェンスを徹底し、ホンコン・チャイナに得点を許さず、5分過ぎには#8内田が逆サイドからゴール下へ飛び込み得点し15-3とリード。ホンコン・チャイナも、積極的なドライブで日本のファールを誘いフリースローで加点し、26-14、日本リードで終了する。

第2ピリオド

何とか差を縮めたいホンコン・チャイナは#5Onが連続ゴールをするが日本#15三上が今日も要所で活躍、3Pとカウントワンシュートプレーで応戦する。さらに#14福岡がローポストでスピントーンからの得点で、3分過ぎには38-18とリードを20点に広げる。ホンコン・チャイナは、2-2-1オールコートディフェンスや2-3ゾーンなどディフェンスを変化させて得点差を縮めようとするが、ターンオーバーやアンスポーツマンライクファールなどでさらに点差を広げられる。終盤、日本もミスで、ホンコン・チャイナ#7Yipに連続得点されるが、50-30と20点リードのまま前半を終了する。

第3ピリオド

ホンコン・チャイナ#10Tsoiがリバウンドシュートを押し込んでスタートするが、日本は#8内田がホンコン・チャイナのゾーンプレスドリブル突破、#13渡辺がそれに合わせて得点。さらにゴール下も積極的に攻めファールを誘いフリースローで加点する。また#13渡辺はアウトサイドのジャンプシュートも連続して決め、続いて#4津山が3P含め連続得点。ホンコン・チャイナも#7Yip、#11Hoらが応戦するが、点差は変わらずゲームは進み75-52、日本23点リードで終了。

第4ピリオド

日本はリードをするもファールトラブルを抱えながらゲームが進む。そんな中ベンチスタートの選手の活躍が光る。第2ピリオドに続き#14福岡がローポストでスピントーンから得点、#8内田のアウトサイドシュート、#15三上のブレイクからゴール下など、日本得意なプレーで得点を重ねる。ホンコン・チャイナも#5On、#11Hoが3Pを決めるも点差は変わらず、日本が96-71で勝利し、2連勝を飾った。

次戦、8月21日(木) 13:00(現地時間)より、予選ラウンド(グループD)第3戦を現在2勝同士のチャイニーズタイペイと対戦する。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会